

瓦からみた讃岐国分尼寺の造営時期について

渡部 明夫

1. はじめに

讃岐国分尼寺が讃岐国分寺とともに奈良時代に建立されたことは江戸時代から知られていた⁽¹⁾が、造営の開始時期や完成時期などについては現在まで明らかにされていない。

大正8(1919)年、長町彰氏は讃岐国分尼寺跡出土瓦をはじめて取り上げ⁽²⁾、八葉複弁蓮華文軒丸瓦K B 104⁽³⁾(讃岐国分寺跡SKM18)、均整唐草文軒平瓦K B 201A(同SKH01C)・K B 201B(同SKH 01B)・K B 204・K B 205や格子叩き目・繩叩き目をもつ平瓦の破片などを紹介しているが、軒瓦の年代については言及していない。

大正11年に刊行された『史蹟名勝天然紀念物調査報告1』⁽⁴⁾では、国分寺瓦窯跡(府中・山内瓦窯跡)から天平期以降の軒瓦が出土することを紹介しているが、聖武天皇の在世中は国分二寺の整備が進まなかつたとしている。

また、昭和6年には坂出市所在の鎌田共済会郷土博物館で、讃岐国分尼寺跡出土の十六葉細素弁蓮華文軒丸瓦K B 101・八葉複弁蓮華文軒丸瓦K B 103B・K B 104・均整唐草文軒平瓦K B 203が展示され⁽⁵⁾、讃岐国分尼寺に用いられた軒瓦の内容が徐々に明らかになった。

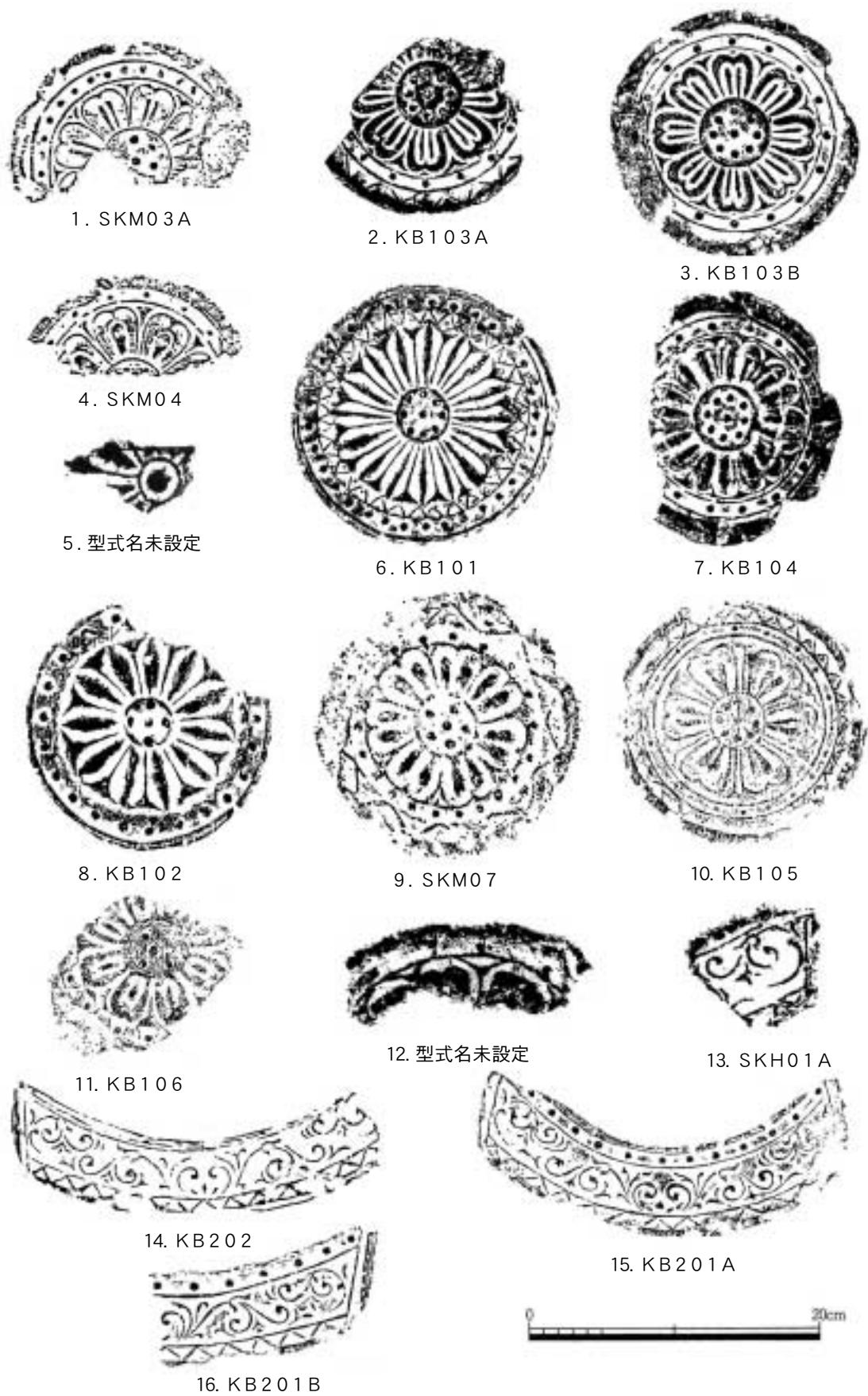
昭和13年、岡田唯吉氏は『国分寺の研究』⁽⁶⁾の中で、讃岐国分尼寺跡出土の軒瓦を天平期として、国分寺建立の際に尼寺も創立されたとした。また、堀井三友氏も『国分寺址之研究』⁽⁷⁾において、讃岐国分尼寺跡出土軒瓦が奈良時代と思われることから、国分寺と同時に建立されたとしたが、いずれも瓦の編年研究をふまえた年代観に基づくものではなかった。ただ、堀井三友氏は讃岐国分尼寺跡出土軒瓦には国分寺と共に通するものがあるとともに、十六葉細素弁蓮華文軒丸瓦K B 101のように国分尼寺にのみ出土する軒瓦があることに注目している。

その後、昭和40年代から安藤文良氏を中心に香川県内の古瓦の集成が進み⁽⁸⁾、これを受けて昭和58年の『新編香川叢書 考古編』⁽⁹⁾では十六葉細素弁蓮華文軒丸瓦K B 101を創建瓦と見ることもできるとして、はじめて出土瓦から讃岐国分尼寺の創建時期を明らかにしようとした。

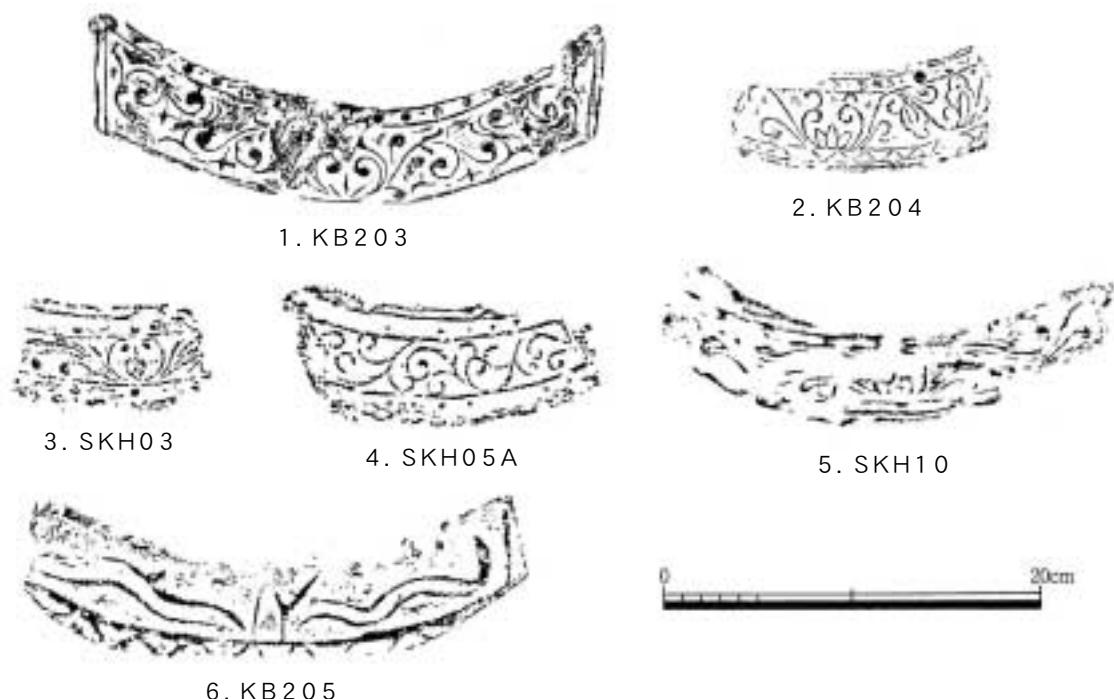
また、松本豊胤氏は、昭和62年に刊行された『新修国分寺の研究』⁽¹⁰⁾の中で、軒丸瓦IV類-(1)-(A)と軒平瓦II類を讃岐国分尼寺の創建瓦とし、「国分寺建立の詔以後時を経ずして讃岐国分尼寺が建立されたことを物語っている。」とした。

軒丸瓦IV類-(1)-(A)は国分尼寺跡出土瓦の挿図中には掲載されていないが、讃岐国分寺に関する記述の中に「周縁の内傾面には23個の鋸歯文が施されている。」と記されているので八葉複弁蓮華文軒丸瓦SKM01と考えられる。また、軒平瓦II類は挿図中の均整唐草文軒平瓦K B 201A、すなわち讃岐国分寺跡SKH01Cをいうと考えられるので、松本氏は、讃岐国分尼寺ではSKM01-SKH01Cの組合せがみられ、讃岐国分寺とほぼ同時期の建立を想定したようである。

しかし、讃岐国分尼寺跡出土とされるSKM01は、了恵寺資料とされる1点の拓本が鎌田共済会郷土博物館に所蔵されているが、石狩市了恵寺に所蔵されている当該瓦を確認した結果、「サヌキ国分寺」の注記があるとともに、住職の高木憲了氏からも讃岐国分寺跡出土であるとの説明をいただいたので、八葉複弁蓮華文軒丸瓦SKM01は讃岐国分尼寺跡からは出土していないことになり、現在のところSKM



第1図 讃岐国分尼寺跡出土軒瓦 1



第2図 讃岐国分尼寺跡出土軒瓦 2

01 – SKH01Cの組合せを讃岐国分尼寺の創建瓦とすることはできないことになる。

一方、昭和57年度に実施された指定地南西部での発掘調査で、讃岐国分尼寺の寺域の西側を限ると思われる南北溝が検出され、出土遺物からみてこの溝が10世紀に埋没を開始していることから、その掘削はそれ以前であるとしたが、国分尼寺の創建時期を推定する有力な根拠となる溝の掘削時期の特定には至らなかった⁽¹¹⁾。

しかし、昭和59年度の讃岐国分尼寺跡の発掘調査において、国分尼寺の創建期の瓦とみられる均整唐草文軒平瓦KB202は、讃岐国分寺跡SKH01Aの瓦缶の上外区の珠文帯を周縁帯に彫り直したものであることが明らかにされた⁽¹²⁾。

また、昭和59年度の讃岐国分寺跡の発掘調査ではSKH01Aを創建期軒平瓦の最古に位置づけ⁽¹³⁾、翌昭和60年度の発掘調査において、讃岐国分寺の創建年代を8世紀中頃と想定した⁽¹⁴⁾ことから、国分尼寺は8世紀中頃をあまり遅れない時期に創建されたと考えられることになった。

しかし、讃岐国分尼寺跡では発掘調査がほとんど行われていないため、創建期の瓦の種類・数量や軒丸瓦と軒平瓦の組合せの問題、実年代の比定などはほとんどわかっていない。ただ、発掘資料ではないが、讃岐国分尼寺跡の軒瓦については多くの人々によって注目され、比較的多くの資料が採集され、紹介されている。これらの資料のほとんどは、学術的な調査を経ていないなどの問題があるが、多くの資料を分析できれば有効な結論を導き出すことも可能であろう。

したがって、本稿では讃岐国分尼寺研究の基礎的作業の一つとして、讃岐国分尼寺跡から出土したとされる軒瓦を集成し、国分尼寺における軒瓦の様相を可能な限り明らかにし、その分析によって国分尼寺の造営時期を考えてみたい。

2. 讀岐国分尼寺跡出土とされる軒瓦とその組み合わせ

讀岐国分尼寺跡において発掘調査が実施され、調査結果が公表されたのは3例であるが、さまざまな機会に採集された瓦については、大正8年の長町彰氏による資料紹介以来、拓本・写真・実測図などで報告されたものが現在までに18例ある。ほかに、未公表資料を含む拓本資料が1例、博物館・寺院・個人の所蔵資料を9例確認することができた。これらについて、古代の瓦に限って集成し、各資料の重複関係を明らかにしたのが第2～7表である。さらに、重複が認められる軒瓦については初出資料で代表させると、軒丸瓦が11型式12種、44点、軒平瓦が8型式10種、44点確認できた(第1・2図、第1表)。

これらのうち、ほぼ9世紀前半頃までに比定できる可能性が高いのは、軒丸瓦ではKB101・KB

区分	名 称	型 式 名	数 量	比 率(%)
軒丸瓦	十六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB101	16	36.4
	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	9	20.5
	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18	5
	八葉複弁蓮華文軒丸瓦		SKM03A	2
	十一葉素弁蓮華文軒丸瓦	KB102		3
	八葉單弁蓮華文軒丸瓦		SKM04	2
	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	SKM15	2
	八葉單弁蓮華文軒丸瓦		型式名未設定	1
	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103A		1
	八葉單弁蓮華文軒丸瓦	KB106	SKM09	1
	七葉複弁蓮華文軒丸瓦		SKM07	1
	八葉單弁(?)蓮華文軒丸瓦		型式名未設定	1
軒 丸 瓦 合 計			44	100
軒平瓦	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B	11
	均整唐草文軒平瓦	KB203		8
	均整唐草文軒平瓦	KB202		7
	均整唐草文軒平瓦	KB204		6
	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C	4
	均整唐草文軒平瓦	KB205		3
	均整唐草文軒平瓦		SKH05A	2
	均整唐草文軒平瓦		SKH01A	1
	均整唐草文軒平瓦		SKH03	1
	均整唐草文軒平瓦		SKH10	1
軒 平 瓦 合 計			44	100
軒 瓦 合 計			88	

第1表 讀岐国分尼寺跡出土軒瓦の種類と数量

り付くことから、KB101がSKM02Aを遡ることは考えられない。

SKM02Aは讀岐国分寺跡で均整唐草文軒平瓦SKH01Cと組み合うとされているので、KB101がSKH01Cに直続するKB201B(SKH01B)と組み合うと考えても矛盾は生じない。したがって、KB101-KB201B(SKH01B)の組合せがまず想定できる。

次に、KB101-KB201B(SKH01B)の組合せに先行するとみられる軒瓦をあげると、軒丸瓦では八葉複弁蓮華文軒丸瓦SKM03A・KB103A・KB103B・八葉單弁蓮華文軒丸瓦SKM04があり、軒平瓦では均整唐草文軒平瓦SKH01A・KB202・KB201A(SKH01C)がある。このうち、国分

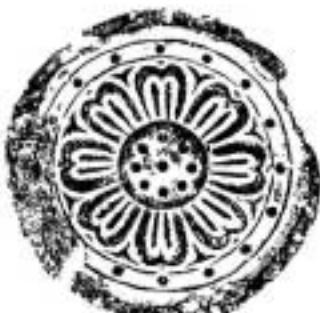
103B・KB104(SKH18)・KB102・SKM03A・SKM04・KB103A・型式未設定の八葉單弁蓮華文軒丸瓦(第1図5)の8種、39点で、軒丸瓦のうち88.7%を占める。軒平瓦ではKB201B(SKH01B)・KB202・KB203・KB204・KB201A(SKH01C)・SKH01Aの6種、37点で、軒平瓦のうち84.1%を占める。

軒丸瓦と軒平瓦のうち、最も多く出土しているのは十六葉細素弁蓮華文軒丸瓦KB101(36.4%)と均整唐草文軒平瓦KB201B(SKH01B、25.0%)であり、それぞれ他の型式に比べて特に多く採集されている。

KB101は瓦当部の比較的低い位置に丸瓦部が取り付き、補強粘土を内外面とも多量に施し、丸瓦部側面と瓦当裏面との境を曲線的に仕上げており、接合部の形態・技法が讀岐国分寺跡SKM02Aに類似する。また、KB101と同範又は同文とされている三木町始覚寺跡出土S I 104⁽¹⁵⁾は丸瓦部がさらに低位に取り付くことから、KB101がSKM02Aを遡することは考えられない。



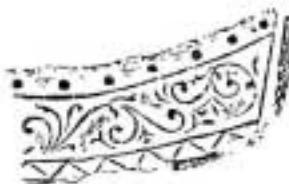
1. SKM03A-SKH01A



2. KB103B-KB202



3. SKM04-KB201A (SKH01C)



4. KB101-KB201B (SKH01B)



6. KB104-KB203



第3図 讀岐国分尼寺における軒瓦の組合せ

寺町教育委員会による讃岐国分寺跡の発掘調査では、SKM03A－SKH01A、SKM04－SKH01B・01Cの組合せを想定している⁽¹⁶⁾。

出土量からみると、KB101－KB201B(SKH01B)の組合せに先行するとみられる軒瓦の中では、KB103B(20.5%)－KB202(15.9%)が多く、この両者が讃岐国分尼寺の整備の初期に主要な組合せとして用いられたと考えられる⁽¹⁷⁾。

次にKB101－KB201B(SKH01B)の組合せに後出するとみられる軒瓦をあげると、軒丸瓦では八葉複弁蓮華文軒丸瓦KB104(SKM18)、軒平瓦では均整唐草文軒平瓦KB203・KB204がある。このうち、KB203(18.2%)はKB201B(SKH01B)に直続し、KB104(SKM18、11.4%)は、讃岐国分寺跡でKB201B(SKH01B)と組み合うとしたSKM06より後出する⁽¹⁸⁾ことから、KB104(SKM18)とKB203の時期は一致し、両者は組み合うものと考えられる。

単弁蓮華文軒丸瓦(KB102及び第1図5)と均整唐草文軒平瓦KB204は時期を明確にすることはできない。あるいは、KB102とKB204が組み合い、平安時代初期に比定されるかとも思われるが、その解説は今後の課題である。また、以上の組合せは採集資料の分析によるものであることから、今後発掘調査による多数の資料をもとに再検討を加える必要がある。

3. 讃岐国分尼寺の整備をめぐって

以上のように、讃岐国分尼寺の整備においてはKB103B－KB202、KB101－KB201B(SKH01B)、KB104－KB203の組合せが主要に用いられたと考えられる。このうち、KB201B(SKH01B)を除くと、讃岐国分寺からはKB104(SKM18)が1点出土しているのみであり、KB201B(SKH01B)も讃岐国分寺では主に主要堂塔の整備後に用いられた⁽¹⁹⁾と考えられることから、国分尼寺は讃岐国分寺と異なる独自の瓦を使用することを基本にして整備することを意図したことがわかる。

讃岐国分尼寺の整備における初期の主要な軒瓦の組合せはKB103B－KB202であったと思われるが、讃岐国分寺で想定されたSKM03A－SKH01Aの組合せも少量ながら出土している。KB103BはSKM03Aに後出し⁽²⁰⁾、KB202はKB201A(SKH01C)に先行する⁽²¹⁾と考えられることから、国分尼寺の整備は、KB103B－KB202の段階よりわずかに遅って開始されたとともに、讃岐国分寺の再整備にわずかに遅れて開始されたと考えられる。ただし、SKM03A－SKH01Aが讃岐国分寺からの転用瓦である可能性もあり、讃岐国分尼寺の整備の開始時期の詳細についてはなお検討が必要である。

一方、府中・山内瓦窯跡出土とされるKB103Bと均整唐草文軒平瓦SKH01Cに、酷似した胎土と同様な焼成をもつものがあり、同時製作も考えられることから、KB202とSKH01Cの時期差は小さい可能性があり⁽²²⁾、そうであれば、KB202・KB201Aの合計が25%、これと組み合うと考えられる軒丸瓦(KB103A・103B・SKH04)の合計が27.3%となり、比較的出土量が多いことから、国分尼寺の整備が当初から順調に進行したとみることもできる。

讃岐国分尼寺の整備が最も盛んであったのは、次のKB101－KB201B(SKH01B)の段階である。先述のように、KB201B(SKH01B)は讃岐国分寺の再整備における最終段階の軒平瓦であり、主要堂塔の主体をなす軒瓦としてはほとんど用いられなかったと考えられることから、讃岐国分寺の主要堂塔がほぼ完成しつつある時期に、国分尼寺では伽藍が急ピッチで整備されていたことになる。

次のKB104(SKH18)－KB203は国分尼寺の整備の最終段階であり、この段階を経て、国分尼寺の整備がほぼ終了したものと考えられる。

以上のように、讃岐国分尼寺は、独自の軒瓦を用いることを基本にして、讃岐国分寺の再整備にやや遅れて整備が開始されたが、KB103B-KB202の段階で整備が本格化し、讃岐国分寺の再整備が終了に向かいつつあるKB101-KB201B(SKH01B)の段階で最盛期を迎え、国分寺の完成後であるKB104(SKH18)-KB203の段階をへて伽藍がほぼ完成したものと思われる。

軒平瓦によって、敢えておよその実年代を想定するならば、讃岐国分尼寺の整備が始まったSKM03A-SKH01Aの段階を770年代前半～中頃とし、大規模な整備が行われたKB101-KB201B(SKH01B)の段階を780年代、整備が終了に向かいつつあるKB104(SKH18)-KB203の段階を790年代とすることができます。

(註)

1. 増田休意『三代物語』 明和5(1768)年
中山城山『全讃史』 文政11(1828)年(青井常太郎校訂『国訳全讃史』藤田書店 1937)
梶原景紹『讃岐国名勝図絵』 嘉永6(1853)年(松原秀明編『日本名所風俗図絵 14 四国の巻』角川書店 1981所収)
香川県『香川叢書』1 香川県 1939所収
2. 長町彰「讃岐国分尼寺の古瓦」『考古学雑誌』9-5 考古学会 1919
3. 本稿では讃岐国分寺跡出土軒瓦の型式略号は松尾忠幸ほか1996に、その他の県内寺院跡出土軒瓦は川畠聰 1996に従うほか、その後に追加された型式略号は初出文献に従う。
松尾忠幸ほか『特別史跡讃岐国分寺跡保存整備事業報告書』 1996
川畠聰『第11回特別展 讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館 1996
4. 香川県史蹟名勝天然紀念物調査会「国分寺及国分尼寺」『史蹟名勝天然紀念物調査報告』1 1922
5. 岡田唯吉『郷土博物館第6回陳列品解説』財団法人鎌田共済会 1931
6. 岡田唯吉「讃岐国分寺」『国分寺の研究』考古学研究会 1938
7. 堀井三友『国分寺址之研究』堀井三友遺著刊行委員会 1956
8. 安藤文良「讃岐古瓦図録」『文化財協会報』特別号8 香川県文化財保護協会 1967
安藤文良編『古瓦百選—讃岐の古瓦—』美巧社 1974
大塚勝純・黒川隆弘『讃岐国分寺の瓦と壇』牟礼印刷株式会社 1975
9. 新編香川叢書刊行企画委員会「讃岐国分寺跡」『新編香川叢書 考古編』香川県教育委員会 1983
10. 松本豊胤「讃岐」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館 1987
11. 大山真充『史跡讃岐国分尼寺跡 第2次調査報告』香川県教育委員会 1983
12. 松尾忠幸『讃岐国分僧・尼寺跡 昭和59年度発掘調査概報』国分寺町教育委員会 1985
13. 松尾忠幸『特別史跡讃岐国分寺跡 昭和59年度発掘調査概報』国分寺町教育委員会 1985
14. 松尾忠幸ほか『特別史跡讃岐国分寺跡 昭和60年度発掘調査概報』国分寺町教育委員会 1986
15. 川畠聰『第11回特別展 讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館 1996
16. 註14に同じ。
17. 採集資料の数量からみるかぎり、KB103BはKB202と組み合うと考えざるを得ないが、最終的には発掘調査によって確認する必要がある。

18. 渡部明夫「讃岐国分寺跡出土軒丸瓦の編年～子葉間に仕切り線をもたない複弁蓮華文軒丸瓦の編年について～」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅱ 香川県埋蔵文化財センター 2006
19. 渡部明夫「均整唐草文軒平瓦SKH01Bに関する2、3の問題について～讃岐国分寺とその周辺でのあり方から～」『田村久雄先生傘寿記念文集 十瓶山Ⅱ』田村久雄傘寿記念会 2006
20. 註18に同じ。
21. 渡部明夫「讃岐国分寺創建軒平瓦の型式学的再検討」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要』XI 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 2004
22. 渡部明夫「讃岐国分寺跡出土軒丸瓦の編年～子葉間に仕切り線をもたない複弁蓮華文軒丸瓦の編年について～」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅲ 香川県埋蔵文化財センター 2006
渡部明夫「府中・山内瓦窯跡について～讃岐国分寺瓦屋の基礎的整理～」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅲ 香川県埋蔵文化財センター 2007

本稿をなすにあたって、安藤文良氏に多くの資料についてご教示・ご配慮をいただいたほか、鎌田共済会郷土博物館森山修司氏・西川桂子氏、洲崎寺住職御城俊宏氏、法華寺住職吉本正文氏、了恵寺住職高木憲了氏、遠藤亮氏、上原孝夫氏、故大西徳次郎氏、堀家守彦氏、米崎旭氏、愛媛大学田崎博之氏にご教示、ご協力をいただいた。末筆ながら、厚くお礼を申し上げたい。

第2表 図版の引用文献一覧

図版番号	図番号	引用文献
1	1・4・9	松本豊胤「讃岐」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館 1987
	2・3・6～8・10・15・16	川畠聰『第11回特別展 讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館 1996
	5	渡部明夫・羽床正明「国分尼寺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和55年度』香川県教育委員会 1981
	11・14	松尾忠幸『讃岐国分僧・尼寺跡 昭和59年度発掘調査概報』国分寺町教育委員会 1985
2	1	安藤文良氏拓本資料
	2・6	川畠聰『第11回特別展 讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館 1996
	3・4	松本豊胤「讃岐」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館 1987
	5	松尾忠幸『讃岐国分僧・尼寺跡 昭和59年度発掘調査概報』国分寺町教育委員会 1985
	3	図版1・2の図を再掲

1. 鎌田共済会郷土博物館資料



1. KB201B (SKH01B)



2. KB101



1. KB105 (SKM15)

2. 洲崎寺資料



1. SKM03A



2. KB103B



3. KB101



4. KB210B (SKH01B)



5. KB203

3. 法華寺資料



1. KB103B



2. KB202

4. 了恵寺資料



1. KB201A (SKH01C)



2. KB201B (SKH01B)



3. KB203

第4図 讃岐国分尼寺跡出土未報告軒瓦一覧1（縮尺不同）

5. 安藤文良氏資料



1. KB101



2. KB101

(1、2はいずれも破片からの復元)

9. 上原孝夫氏資料



1. KB102



2. KB203

6. 大西徳次郎氏資料



1. SKM04



2. KB101



3. KB202



4. KB201B (SKH01B)



5. KB201B (SKH01B)



6. KB203

第5図 讃岐国分尼寺跡出土未報告軒瓦2（縮尺不同）

7. 堀家守彦氏資料



1. KB101



2. KB101



3. KB202



4. KB203

8. 米崎旭氏資料



1. 八葉单弁蓮華文軒丸瓦



2. SKH01A



3. KB201A (SKH01C)

第6図 讀岐国分尼寺跡出土未報告軒瓦3（縮尺不同）

1 長町彰「�赞岐国分尼寺の古瓦」『考古学雑誌』9-5 1919										資料Noは文獻の遺物番号
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18							
2	均整唐草文軒平瓦	KB204								
3	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B							
4	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C	15-9-1						
5	均整唐草文軒平瓦	KB205	15-11-1	27-1						

2 岡田唯吉「郷土博物館第6回陳列品解説」財団法人郷土共済会 1931										資料Noは筆者が付与
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
1	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	6-44	7-83	8-75	9-1	11-2	16-111	18-1	25-2
2	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	3-7							
3	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	5-39	6-8	8-71	11-7	15-4	16-100	18-5	19-13-8
4	均整唐草文軒平瓦	KB203	5-33	6-47	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11

3 岡田唯吉「�赞岐国分寺」『国分寺の研究』1938										資料Noは文獻の遺物番号
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
6	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	15-1							
7	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	2-2							
8	均整唐草文軒平瓦	KB204	23-1							
9	均整唐草文軒平瓦	KB201B	5-32							

4 福家物倉「香川県通史 古代・中世・近世編」1965										資料Noは文獻の遺物番号
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	5-30	7-67	8-73	11-4	16-101	18-4	22-2	25-5

5 安藤文良「�赞岐古瓦图录」『文化财协会报』特别号8 1967										資料Noは文獻の遺物番号
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
88	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101								
89	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	2-3	6-8	8-71	11-7	15-4	16-100	18-5	19-13-8
90	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	7-67	8-73	11-4	16-101	18-4	22-2	25-5
91	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	8-33	11-6	18-6	25-9				
92	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B	3-9						
93	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	6-47	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11
94	均整唐草文軒平瓦	KB205	8-34	11-13	18-13					

6 安藤文良「瓦その1 国分寺と国分尼寺」香川県文化会館郷土資料室目録』1970										資料Noは文獻の遺物番号
No	名 称	型 式名	報告等の重複文献No・資料No)							備考
8	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18	2-3	5-89	8-71	11-7	15-4	16-100	18-5
44	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	7-83	8-75	9-1	11-2	16-111	18-1	25-2
47	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11

第2表 讀岐国分尼寺跡出土軒瓦の報告等と重複について1

7 安藤文良編『古瓦百選—讃岐の古瓦—』1974										資料Noは文献の頁数	
報告等の重複文献NO 資料No)										備考	
No	名 称	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名
67	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	8-73	11-4	16-101	18-4	22-2	25-5	
83	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	8-75	9-1	11-2	16-111	18-1	25-2	
114	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	6-47	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11	20-9-5
8	大塚勝純・黒川隆弘『讃岐国分寺の瓦と?』1975										
報告等の重複文献NO 資料No)										資料Noは文献の頁数	
No	名 称	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名
71	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18	2-3	5-89	6-8	11-7	15-4	16-100	18-5	19-13-8
72	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	6-47	7-114	11-11	12-3	15-7	18-11	20-9-5
73	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	7-67	11-4	16-101	18-4	22-2	25-5	
74	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKU01C	9-2	11-10	18-8	25-10				
75	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	7-83	9-1	11-2	16-111	18-1	25-2	
76	均整唐草文軒平瓦	KB204									
77	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101									
78	均整唐草文軒平瓦	KB203									
79	+ (八?)葉单弁蓮華文軒丸瓦			11-9	25-1						
80	均整唐草文軒平瓦	KB204									
81	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101									
82	均整唐草文軒平瓦		SKU05A								
83	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	SKU15	5-91	11-6	18-6	25-9				
84	均整唐草文軒平瓦	KB205	5-94	11-13	18-13						
9	奈良国立博物館『特別展国分寺』1980										
報告等の重複文献NO 資料No)										資料Noは筆者が付与	
No	名 称	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名
1	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	7-83	8-75	11-2	16-111	18-1	25-2	
2	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKU01C	8-74	11-10	18-8	25-10				
10	渡部明夫・羽床正明「国分尼寺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和55年度』1981										
報告等の重複文献NO 資料No)										資料Noは文献の遺物番号	
No	名 称	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18								
2	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101									
3	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKU01B								
4	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKU01B								
11	渡部明夫・羽床正明「国分尼寺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和55年度』1981 (法華寺所蔵瓦)										
報告等の重複文献NO 資料No)										資料Noは文献の遺物番号	
No	名 称	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名	型 式 名
1	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	7-83	8-75	9-1	16-111	18-1	25-2	
2	十六葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB102	2-1	6-44	7-83	8-75					
3	十一葉細糸弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	7-67	8-73	16-101	18-4	22-2	25-5	
4	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	25-7								
5	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	SKU15	5-91	8-83	18-6	25-9				
6	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKU18	2-3	5-89	6-8	8-71	15-4	16-100	18-5	19-13-8
7	八葉複弁蓮華文軒丸瓦									21-4-1	22-4

第3表 讀岐国分尼寺跡出土軒瓦の報告等と重複について2

第4表 讀岐国分尼寺跡出土軒瓦の報告等と重複について 3

No	名 称	型式名	報告等の重複文献N○-資料N○	資料N○は文獻の遺物番号	備考
1	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB103B	24-2		
2	十六葉細素弁連華文軒丸瓦	KB101			KB103Aか?
3	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4		
4	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB106	SKH10	18-7	15-7 18-11 20-3-8 20-9-5 22-5 25-12
5	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB107			
6	均整唐草文軒平瓦	KB203			
7	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB108			
8	均整唐草文軒平瓦	KB109			
9	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB110			
10	均整唐草文軒平瓦	KB111			
11	均整唐草文軒平瓦	KB112			
12	均整唐草文軒平瓦	KB113			
13	大山真充『史跡讀岐國分寺跡 第2次調査報告』1983				
14	松尾忠幸『讀岐國分僧・尼寺跡 昭和59年度発掘調査概報』1985				
15	松本豊樹『讀岐』『新修国分寺の研究』第5巻上 南海道 1987				
No	名 称	型式名	報告等の重複文献N○-資料N○	資料N○は文獻の遺物番号	備考
1	十六葉細素弁連華文軒丸瓦	KB202	19-16-8 18-10	20-9-2	
2	均整唐草文軒平瓦	KB202			
3	均整唐草文軒平瓦	KB106	SKH10		
4	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB106	SKH09	18-7	
5	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB107			
6	八葉模弁連華文軒丸瓦	KB108			
7	均整唐草文軒平瓦	KB109	SKH04	3-6	
8	均整唐草文軒平瓦	KB110			
9-1	均整唐草文軒平瓦	KB111	SKH01C	1-4	9-2と別個体のため細分
9-2	均整唐草文軒平瓦	KB112	SKH01B	23-3	9-1と別個体のため細分
10	均整唐草文軒平瓦	KB113	SKH03	24-7	
11-1	均整唐草文軒平瓦	KB205	SKH03	1-5 27-1	11-2と別個体のため細分
11-2	均整唐草文軒平瓦	KB205	SKH07	27-2	11-1と別個体のため細分
12	七葉模弁連華文軒丸瓦				

16 安藤文良「古瓦」『香川県史』13 資料編 考古』1987										資料NOは文献の遺物番号	
報告等の重複文献NO-資料NO)										備考	
NO	名 称	型式名									
58	十一葉細条連華文軒丸瓦	KB102	18-2	5-89	6-8	8-71	11-7	15-4	18-5	19-13-8	21-4-1 22-4 25-8
100	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB104	2-3	5-90	7-67	8-73	11-4	18-4	22-2	25-5	
101	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB103B	4-1	6-44	7-83	8-75	9-1	11-2	18-1	25-2	
111	十六葉細条連華文軒丸瓦	KB101	2-1								
17 木村捷三郎監修・廣田長三郎編『古瓦図考』1989											
NO	名 称	型式名									
463	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB103B									
464	均整唐草文軒平瓦	KB202									
18 川畑稔『第11回特別展 讀岐の古瓦展』高松市歴史資料館 1996											
NO	名 称	型式名									
1	十六葉細条連華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	7-83	8-75	9-1	11-2	16-111	25-2	
2	十一葉細条連華文軒丸瓦	KB102	16-58								
3	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB103A	22-1								
4	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	7-67	8-73	11-4	16-101	22-2	25-5	
5	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB104	2-3	5-89	6-8	8-71	11-7	15-4	16-100	19-13-3	21-4-1 22-4 25-8
6	六葉複弁連華文軒丸瓦	KB105	SKM15	5-91	8-83	11-6	25-9				
7	八葉單弁連華文軒丸瓦	KB106	SKM09	14-4							
8	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C	8-74	9-2	11-10	25-10				
9	均整唐草文軒平瓦	KB201B	25-11								
10	均整唐草文軒平瓦	KB202	14-2								
11	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	6-47	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	20-3-8 22-5 25-12
12	均整唐草文軒平瓦	KB204									
13	均整唐草文軒平瓦	KB205	5-94	8-84	11-13						
19 国分寺町教育委員会『特別史跡讀岐国分寺跡保存整備事業報告書』1996											
NO	名 称	型式名									
13-8	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB104	SKM18	2-3	5-89	6-8	8-71	11-7	15-4	16-100	18-5 21-4-1 22-4 25-8
16-8	均整唐草文軒平瓦	KB202	14-1	20-9-2							
20 渡部明夫『讀岐国分寺創建軒平瓦の型式学的再検討』『財団法人香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅰ 2004											
NO	名 称	型式名									
2-3	均整唐草文軒平瓦	KB202	31-4								
3-8	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	6-47	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11 20-9-5 22-5 25-12
9-2	均整唐草文軒平瓦	KB202	14-1	19-16-8							
9-5	均整唐草文軒平瓦	KB203	2-4	5-93	6-47	7-114	8-72	11-11	12-3	15-7	18-11 20-3-8 22-5 25-12
21 渡部明夫『讀岐国分寺跡出土軒丸瓦の編年～子葉間に仕切り線をもたない複弁連華文軒丸瓦の編年について～』『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅱ 2006											
NO	名 称	型式名									
4-1	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB104	SKM18	2-3	5-89	6-8	8-71	11-7	15-4	16-100	18-5 19-13-8 22-4 25-8
7-1	八葉複弁連華文軒丸瓦	KB104	SKM18	31-1							

第5表 讀岐国分尼寺跡出土軒瓦の報告等と重複について4

22 安藤文良氏拓本資料(鍛田共済会郷土博物館蔵)						
No	名 称	型 式 名	型 式 名	報告等の重複文献No○資料No)	報告等の重複文献No○資料No)	資料Noは筆者が付与 備考
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103A	18-3			
2	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	7-67	8-73 11-4 16-101 18-4 25-5
3	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	S KM18	29-3		
4	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	S KM18	2-3	5-89	6-8 8-71 11-7 15-4 16-100 18-5 19-13-8 21-4-1 25-8
5	均整唐草文軒平瓦	KB203		2-4	5-93	6-47 7-114 8-72 11-11 12-3 15-7 18-11 20-3-8 20-9-5 25-12

23 鍛田共済会郷土博物館資料						
No	名 称	型 式 名	型 式 名	報告等の重複文献No○資料No)	報告等の重複文献No○資料No)	資料Noは筆者が付与 備考
1	均整唐草文軒平瓦	KB204		3-8		
2	均整唐草文軒平瓦		SKH05A	15-8		
3	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B	15-9-2		
4	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B			
5	十六葉細瓣蓮華文軒丸瓦	KB101				
6	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	SKM15			

24 洲崎寺資料						
No	名 称	型 式 名	型 式 名	報告等の重複文献No○資料No)	報告等の重複文献No○資料No)	資料Noは筆者が付与 備考
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B		SKM03A		
2	八葉複弁蓮華文軒丸瓦		12-1			
3	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B				
4	十六葉細瓣蓮華文軒丸瓦	KB101				
5	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B			
6	均整唐草文軒平瓦	KB203				
7	均整唐草文軒平瓦		SKH03	15-10		

25 法華寺資料						
No	名 称	型 式 名	型 式 名	報告等の重複文献No○資料No)	報告等の重複文献No○資料No)	資料Noは筆者が付与 備考
1	八葉單弁蓮華文軒丸瓦	KB101		8-79	11-9	
2	十六葉細瓣蓮華文軒丸瓦	KB101	2-1	6-44	7-83	8-75 9-1 11-2 16-111 18-1
3	十六葉細瓣蓮華文軒丸瓦	KB101	11-1			
4	十一葉細瓣蓮華文軒丸瓦	KB102	11-3			
5	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	4-1	5-90	7-67	8-73 11-4 16-101 18-4 22-2
6	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B				
7	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB103B	11-5			
8	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	S KM18	2-3	5-89	6-8 8-71 11-7 15-4 16-100 18-5 19-13-8 21-4-1 22-4
9	六葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB105	SKM15	5-91	8-83	11-6 18-6
10	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C	8-74	9-2	11-10 18-8
11	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B	18-9		
12	均整唐草文軒平瓦	KB203		2-4	5-93	6-47 7-114 8-72 11-11 12-3 15-7 18-11 20-3-8 20-9-5 22-5
13	均整唐草文軒平瓦	KB202				

26 了恵寺資料								
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦		SKM03A	15-5				
2	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C					
3	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B					
4	均整唐草文軒平瓦	KB203						
27	安藤文良氏資料							
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	均整唐草文軒平瓦	KB205	KB205	1-5	15-11-1			
2	均整唐草文軒平瓦	KB205		15-11-2				
3	十六葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB101						
4	十六葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB101						
28	上原孝氏資料							
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	十一葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB102						
2	均整唐草文軒平瓦	KB203						
29	大西徳次郎氏資料							
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	八葉単弁蓮華文軒丸瓦		SKM04					
2	十六葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB101						
3	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18	22-3				
4	均整唐草文軒平瓦	KB202						
5	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B					
6	均整唐草文軒平瓦	KB201B	SKH01B					
7	均整唐草文軒平瓦	KB203						
30	堀家守彌氏資料							
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	十六葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB101						
2	十六葉細瓣弁蓮華文軒丸瓦	KB101						
3	均整唐草文軒平瓦	KB202						
4	均整唐草文軒平瓦	KB203						
31	米崎胆氏資料							
No	名 称	型式名	型式名	報告等の重複(文献NO-資料NO)				
1	八葉複弁蓮華文軒丸瓦	KB104	SKM18	2-7-2				
2	八葉単弁(?)蓮華文軒丸瓦							
3	均整唐草文軒平瓦		SKH01A					
4	均整唐草文軒平瓦	KB202						
5	均整唐草文軒平瓦	KB201A	SKH01C	20-2-3				